

平成 2 1 年度

大分市美術館

年 報

## 目次

1. 運営方針	4
2. 沿革	5
3. 展覧会事業	6
1. 特別展	6
2. 常設展	35
3. サマー企画	48
4. 教育普及事業	52
1. ハイビジョンシステム	52
2. ハイビジョンシアター	54
3. 芸術・文化に親しむ講座	55
4. 実技講座	55
5. アートカレッジ	55
6. 美術館で音楽会	56
7. 教職員講座	56
8. 子ども講座	57
9. ファミリーアートクラブ	58
10. 出前鑑賞教室	59
11. 職場体験	59
12. ボランティア研修講座	60
13. ボランティア活動	60
14. お出かけ美術館	61
15. 博物館実習	61
16. 各種刊行物	62
5. 資料収集事業	63
1. 美術品等収集事業	64
2. 平成21年度作品貸出状況	66
3. 所蔵図書	67
4. 所蔵映像資料	67
6. 管理運営	68
1. 職員数	68
2. 事務分掌	68
3. 利用状況	69
4. 建築設備概要	70
5. フロア別面積	72
6. 決算	73

7.	利用案内	73
8.	条例	73
9.	条例施行規則	73
7.	アートプラザ	74
1.	運営方針	74
2.	施設概要	74
3.	業務内容	74
4.	現代美術作品 大分市美術館所蔵 常設展示	76
5.	利用案内	77
6.	利用状況	77
7.	アートプラザ条例	77
8.	アートプラザ条例施行規則	77

## 1. 運営方針

大分市美術館は、緑豊かな上野丘公園内に位置し、「たのしんで・みて・まなぶ」美術館として、年間を通じて所蔵の美術品が鑑賞できる常設展やさまざまな優れた分野の美術を紹介する特別展の開催、各種講座・講演会の開催など、子どもから大人までだれもが幅広く楽しめる生涯学習施設としての美術館運営をめざしている。

そのために、豊後南画や大分市にゆかりのある作家の優れた作品などの収集保存活動をはじめとし、調査研究活動、展示活動、教育普及活動、広報活動という5部門の活動を通じて、芸術文化の振興につとめている。

また、特色ある地域の美術文化情報を広く発信し、開かれた美術館として市民との協働による運営を推進している。

## 2. 沿革

昭和 60(1985)年		展示用美術作品の購入開始
昭和 62(1987)年	6 月	市長、6 月議会において、美術館建設を表明 教育委員会社会教育課を所管事務担当とする
昭和 63(1988)年	8 月	大分市美術館基本構想委員会設置(委員 15 名、会長高山辰雄画伯)
平成元(1989)年	3 月	ハイビジョン・シティ構想(郵政省)のモデル都市指定を受ける
	9 月	大分市美術館基本構想委員会が大分市美術館基本構想を答申
平成 2(1990)年	2 月	大分市美術館建設委員会設置(委員 17 名、会長高山辰雄画伯)
	4 月	教育委員会庶務課に美術館建設事務従事を置く
	5 月	美術館建設予定地を上野丘陵地に決定 (第 2 回大分市美術館建設委員会)
	6 月	(仮称)大分市美術館美術作品収集委員会設置要綱制定(委員 9 名)
平成 3(1991)年	4 月	設計者を内井昭蔵建築設計事務所と決定 (指名 5 社のプロポーザル方式、第 4 回大分市美術館建設委員会)
	9 月	上野丘公園が「平成記念子どものもり公園(建設省)」に指定される
	10 月	市長、「美術館建設計画の見直し」を発表
平成 5(1993)年	4 月	教育委員会文化振興課を所管事務担当とする
平成 7(1995)年	9 月	美術館基本・実施設計委託(内井昭蔵建築設計事務所)
	12 月	美術館基本設計終了
平成 8(1996)年	4 月	教育委員会に美術館建設準備室を設置
	5 月	美術館実施設計完了
	9 月	美術館敷地造成工事着工
	12 月	美術館敷地造成工事完成 美術館新築工事着工
平成 10(1998)年	6 月	美術館本体工事完成
	9 月	美術館外構工事完成「大分市美術館条例」制定
	12 月	大分市美術館発足
平成 11(1999)年	2 月	17 日、開館
平成 12(2000)年	11 月	第 41 回建築業協会賞受賞
平成 14(2002)年	2 月	観覧者が 50 万人を超える
平成 16(2004)年	7 月	16 日、皇太子殿下行啓
平成 18(2006)年	4 月	機構改革により二課体制を一課とし、美術振興課設置
平成 19(2007)年	8 月	観覧者が 100 万人を超える
平成 20(2008)年	11 月	秋篠宮殿下お成り
平成 21(2009)年	2 月	開館 10 周年記念式典挙行

### 3. 展覧会事業

#### 3. 1 特別展

##### 3. 1. 1 人間とは—探求する版画家 浜田知明

**概要** 戦後本格的に版画制作を開始した浜田知明（1917年 熊本県生）は、1951年、戦争という究極の暴力行為が生み出す凄惨な情景、敵味方を問わず人を虫けらのように扱う非人道的な体験を描いた「初年兵哀歌」シリーズでその時代性を背景に注目を集め、さらに、1956年には第4回ルガノ国際版画展で「次賞」を受賞し、国際的にも高い評価を得た。

本展では、人間心理の暗闇や社会に対する疎外感、また、現代社会の不条理性などを時には鋭くえぐるように、時には優しくユーモラスに描き、「人間の本质とは何か」を探究してきた浜田の代表作100点を紹介した。

**会期** 平成21年4月24日（金）～5月17日（日） 公開日数22日

**主催** 大分市美術館

**後援** 大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分  
OAB大分朝日放送、エフエム大分、OCT大分ケーブルテレコム

**出品点数** 版画 100点

**観覧者数** 2,522人

**観覧料** 一般300（250）円／高大生200（150）円、中学生以下無料  
※（ ）内は20名以上の団体料金

**展示解説** ■美術館職員による展示解説（要観覧料）

**日時** 会期中毎週水曜日 午後2時～ 50分程度

**場所** 企画展示室

**参加者** 66人

**印刷物** ・ポスターB2版、チラシA4版

**関連記事** 「人間とは—探求する版画家 浜田知明」『読売新聞』4月17日  
「人間とは—探求する版画家 浜田知明」『毎日新聞』4月24日  
「人間とは—探求する版画家 浜田知明」『大分合同新聞』5月7日

（担当 長田）

目録

No	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・技法
1	聖馬	1950	21.0×14.8	エッチング
2	marikoに	1950	18.9×8.2	エッチング
3	幼なき判士	1951	18.9×17.7	エッチング
4	初年兵哀歌(銃架のかげ)	1951	20.0×17.5	エッチング、アクアチント
5	初年兵哀歌(便所の伝説)	1951	24.1×8.6	メゾチント
6	初年兵哀歌(戦いのあと)	1951	17.5×9.0	メゾチント
7	初年兵哀歌(歩哨)	1951	30.4×21.5	エッチング、アクアチント
8	初年兵哀歌(歩哨)	1951	23.8×12.8	エッチング、アクアチント
9	初年兵哀歌(ぐにゃぐにゃとした太陽がのぼる)	1952	8.9×17.6	エッチング
10	初年兵哀歌	1952	22.5×14.9	エッチング、アクアチント
11	頭	1952	17.1×10.9	エッチング、アクアチント
12	初年兵哀歌	1953	21.5×26.5	エッチング
13	初年兵哀歌(山を行く砲兵隊)	1953	24.2×17.1	エッチング、アクアチント
14	初年兵哀歌(陣地)	1953	20.0×15.5	エッチング、アクアチント
15	風景	1953	36.2×29.8	エッチング
16	風景	1954	24.8×36.2	エッチング、アクアチント
17	假標	1954	19.5×12.0	エッチング、アクアチント
18	絞首台	1954	23.1×13.0	エッチング、アクアチント
19	初年兵哀歌(歩哨)	1954	23.1×16.2	エッチング、アクアチント
20	初年兵哀歌-風景(一隅)	1954	18.7×24.0	エッチング、アクアチント
21	初年兵哀歌(廟)	1954	16.2×24.8	エッチング、アクアチント
22	刑場(A)	1954	24.7×19.0	エッチング、アクアチント
23	刑場(B)	1954	22.8×11.4	エッチング、アクアチント
24	黄土地帯(B)	1954	11.8×19.6	エッチング、アクアチント
25	よみがえる亡霊	1956	30.8×21.6	エッチング、アクアチント
26	副校長D氏像	1956	21.6×14.6	エッチング、アクアチント
27	人	1956	28.8×16.3	エッチング、アクアチント
28	一隅	1956	22.7×15.5	エッチング、アクアチント
29	疑惑	1957	27.5×17.5	エッチング、アクアチント
30	狂った男	1957	28.8×19.7	エッチング、アクアチント
31	愛の歌	1957	20.0×19.5	エッチング
32	飛翔	1958	36.5×45.1	エッチング、アクアチント
33	地方名士	1958	36.1×13.0	エッチング、アクアチント
34	群盲	1960	29.1×29.5	エッチング、アクアチント
35	女	1960	29.7×30.0	エッチング、アクアチント
36	怠惰	1961	34.2×26.0	エッチング
37	風	1961	36.3×23.6	エッチング、アクアチント
38	噂	1961	36.2×23.6	エッチング、アクアチント
39	狂った男	1962	36.1×29.2	エッチング、アクアチント
40	詩人	1963	26.1×21.1	エッチング、アクアチント
41	現代の長城	1964	36.4×44.8	エッチング、アクアチント
42	風景	1967	36.3×46.1	エッチング
43	ロンドン塔 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1969	18.5×21.2	エッチング、アクアチント
44	騎士と鍵と女 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1969	17.8×18.4	エッチング
45	地下牢 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1969	24.9×17.8	エッチング、アクアチント
46	鏡 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	25.5×14.5	エッチング、アクアチント
47	騎士達は静かに眠る (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	18.7×21.5	エッチング
48	ドーバー海峡 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	27.3×12.9	エッチング、アクアチント
49	パリの壁から (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	16.8×27.0	エッチング、アクアチント
50	フランドル伯城 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	23.8×17.9	エッチング、アクアチント

No	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・技法
51	ウィーン (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	13.9×27.4	エッチング、アクアチント
52	グランプラス (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1971	24.3×16.9	エッチング、アクアチント
53	晩年 (A)	1972	22.8×15.6	エッチング
54	晩年 (B)	1972	21.6×15.5	エッチング
55	アレレ…	1974	32.0×19.1	エッチング、アクアチント
56	教授会	1974	26.6×36.3	エッチング、アクアチント
57	家族 (大)	1974	29.5×23.5	エッチング、アクアチント
58	いらいら (A)	1974	23.6×24.7	エッチング、アクアチント
59	孤独なやつ(銅版画集「見える人」)	1974	20.5×21.6	エッチング
60	顔 (銅版画集「見える人」)	1874	21.1×15.4	エッチング、アクアチント
61	情報過多的人間 (銅版画集「見える人」)	1975	22.4×14.5	エッチング
62	男 (銅版画集「見える人」)	1975	25.9×14.9	エッチング
63	顔 (銅版画集「見える人」)	1975	22.5×17.9	エッチング
64	顔 (銅版画集「見える人」)	1975	22.6×16.9	エッチング
65	顔 (銅版画集「見える人」)	1975	24.4×21.6	エッチング
66	顔 (銅版画集「見える人」)	1975	19.2×19.3	エッチング
67	せかせか	1975	26.8×28.4	エッチング、アクアチント
68	いらいら (B)	1975	36.2×28.0	エッチング、アクアチント
69	顔	1975	18.2×20.1	エッチング、手彩色
70	ややノイローゼ気味 (銅版画集「曇後晴」)	1975	22.4×14.5	エッチング、アクアチント
71	叫び (銅版画集「曇後晴」)	1975	21.5×21.6	エッチング、アクアチント
72	顔 (銅版画集「曇後晴」)	1976	22.0×15.2	エッチング
73	お先真っ暗 (銅版画集「曇後晴」)	1976	23.4×12.1	エッチング、アクアチント
74	心情不安定 (銅版画集「曇後晴」)	1976	21.8×16.1	エッチング、アクアチント
75	気にしない 気にしない (銅版画集「曇後晴」)	1976	28.6×14.6	エッチング、アクアチント
76	何とかなるさ (銅版画集「曇後晴」)	1976	21.6×16.5	エッチング、アクアチント
77	かげ (銅版画集「曇後晴」)	1977	21.7×15.3	エッチング、アクアチント
78	浮上 (銅版画集「曇後晴」)	1977	22.2×18.1	エッチング、アクアチント
79	家族 (銅版画集「曇後晴」)	1977	19.4×16.0	エッチング、アクアチント
80	月夜	1977	25.6×27.0	エッチング、アクアチント
81	風化する街 (A)	1977	31.8×23.9	エッチング、アクアチント
82	風化する街 (B)	1978	23.0×30.1	エッチング、アクアチント
83	だめな奴	1979	24.8×16.8	エッチング
84	取引	1979	20.6×26.8	エッチング
85	ポス	1980	27.2×19.5	エッチング
86	教授達	1981	18.3×25.6	エッチング、アクアチント
87	行きどまり	1981	19.0×21.5	エッチング、アクアチント
88	ある日…。	1982	21.9×15.9	エッチング
89	小犬のいる風景	1984	20.8×16.7	エッチング、アクアチント
90	怯える人々	1985	24.5×20.7	エッチング、アクアチント
91	むし暑い夜	1985	23.6×15.9	エッチング、アクアチント
92	月夜	1987	26.9×16.2	エッチング、アクアチント
93	夜	1988	25.7×22.0	エッチング、アクアチント
94	ボタン (A)	1988	32.5×35.5	エッチング、アクアチント
95	H氏像	1989	33.0×24.4	エッチング
96	いらいら (C)	1992	24.0×16.4	エッチング、アクアチント
97	窓から一何もしてないよ (A)	1994	24.4×19.5	エッチング、アクアチント
98	窓から一何もしてないよ (B)	1994	24.4×19.5	エッチング、アクアチント
99	窓から一何もしてないよ (C)	1994	24.4×19.5	エッチング、アクアチント
100	窓から一白い手袋	1996	33.5×22.5	エッチング、アクアチント

### 3. 1. 2. 郷土在住作家展Ⅲ 飯尾寿夫展

**概要** 飯尾寿夫は、1928（昭和 3）年に竹田市に生まれ、熊本工業専門学校（現：熊本大学工学部建築工学科）を卒業後、県内の中・高等学校で教鞭をとる一方で、本格的に油彩画の制作を始めた。1958 年の第 22 回大分県美術展に《或る風景》を出品し、大分県美術協会奨励賞を受賞し、同展が改組された以降も、1968 年の第 4 回大分県美術展に《悼》、翌年の第 5 回展に《額縁の向うの二つの像》を出品し、連続して大分県美術協会賞を受賞した。1970 年の第 6 回展では、大分県美術協会優賞、1986 年の第 22 回大分県美術展で OG 賞を受賞。

また、1967 年以来、二紀会を中心に活躍を続け、1997（平成 9）年の第 51 回二紀展で同人賞を受賞、1998 年の第 52 回二紀展に、《アトリエ寓話（E）》を出品し、会員に推挙された。

本展では、初期の「蝶」、「夏草」、中期の「石」、近年の「耳」などのシリーズの中から、代表作及び関連資料を展示し、洋画家飯尾寿夫の活動の全容を紹介した。

**会 期** 平成 21 年 5 月 20 日（水）～6 月 10 日（水） 公開日数 20 日間

**主 催** 大分市美術館

**後 援** 大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム

**出品点数** 油彩画 60 点、素描 32 点、版画 24 点及び関連資料

**観覧者数** 1,845 人

**観 覧 料** 一般 500（400）円／高大生 300（250）円、中学生以下無料  
※（ ）内は 20 人以上の団体料金

**作家トーク** 5 月 30 日（土） 午後 2 時～3 時 30 分 ハイビジョンホール 98 人

**展示解説** ■美術館職員による展示解説（要観覧料）

日 時 会期中毎週水曜日 午後 2 時～

場 所 企画展示室

参加者 41 人

**印 刷 物** ・ポスター B2 判・チラシ A4 判

**関連記事** 「画業振り返る 116 点 飯尾寿夫展始まる」『大分合同新聞』5 月 20 日  
「絵への思い解説 飯尾寿夫さん作家トーク」『大分合同新聞』6 月 1 日  
「飯尾寿夫展 作風の変遷たどる 116 点」『大分合同新聞』6 月 4 日

（担当 大神）

目録

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
1	或る風景	1958	90.9 × 116.7	油彩・キャンバス	第22回大分県美術展/大分県美術協会奨励賞
2	悼	1968	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	第4回大分県美術展/大分県美術協会賞
3	予兆	1970	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第6回大分県美術展/大分県美術協会優賞
4	弔辞	1972	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	現代九州沖縄洋画展
5	植物Ⅱ	1972	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第4回7人の会展/第8回大分県美術展大分県美術協会優賞/大分市美術館蔵
6	蝶と犬	1974	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第9回大分県美術展/大分県美術協会賞/第28回二紀展
7	草原にてⅥ	1977	193.9 × 130.3	油彩・キャンバス	第13回大分県美術展/大分県美術協会賞
8	誘(1)	1978	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	個展
9	貝と夏草	1978	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	
10	窓	1980	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第34回二紀展
11	蝶と単車	1980	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第16回大分県美術展/大分合同新聞社蔵
12	海辺のセレモニー	1981	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第35回記念二紀展
13	夏草と女高生Ⅰ	1982	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第36回二紀展/荻町総合福祉健康センター蔵
14	夏草と女高生Ⅱ	1982	112.1 × 193.9	油彩・キャンバス	
15	道(2)	1982	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	個展
16	地譜	1986	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第40回記念二紀展
17	聖域(1)	1984	162.1 × 193.9	油彩・キャンバス	宇曾山荘蔵
18	聖域(2)	1985	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第22回大分県美術展/OG賞/大分県立芸術会館蔵
19	聖域(3)	1986	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	個展
20	降臨説	1986	162.1 × 193.9	油彩・キャンバス	
21	大安	1986	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	個展
22	石原と犬	1989	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第43回二紀展
23	聖域(4)	1990	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	第44回二紀展
24	木箱と蝶	1992	193.9 × 130.3	油彩・キャンバス	
25	木箱	1992	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	
26-57	七瀬川畔鉛筆スケッチ 32点	2007-2009	各12.5 × 17.8	紙・鉛筆、鉄筆	
58-81	年頭の初仕事(私の 十二支)24点	1970頃- 2000頃	各15.0 × 20.0	木版画、紙版画、鉛筆等	
82	誘	1978年頃	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	
83	ビー玉	1986年頃	22.7 × 15.8	アクリル・キャンバス	
84	降臨説	2009	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	
85	ジャンボとケンケン	1986年頃	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	個人蔵
86	道	1986年頃	33.3 × 24.2	油彩・キャンバス	
87	降臨説	1986年頃	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	
88	降臨説	2009	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	
89	インド追想	1987年頃	53.0 × 33.3	油彩・キャンバス	
90	会話	1978年/ 2009年	72.7 × 60.6	油彩・キャンバス	
91	蟻地獄	1987年頃	72.7 × 72.7	油彩・キャンバス	個人蔵
92	耳	2008	116.7 × 91.0	油彩・キャンバス	
93	よもつひら坂(1)	1993	162.1 × 193.9	油彩・キャンバス	

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
94	よもつひら坂(2)	1994	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	
95	宵祭	1992	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第46回二紀展
96	ホール(孵化)	1992	193.9 × 193.9	油彩・キャンバス	
97	ホール(走る人)	1994	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第48回二紀展
98	サンドウオッチ	1995	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第49回二紀展/大分工業高等学校蔵
99	午後2時のアトリエ	1995	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	個展
100	アトリエ寓話 I	1997	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第51回二紀展/同人賞
101	青い椅子	1996	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第50回記念二紀展
102	俺はドラゴン(1)	1998	162.1 × 227.3	油彩・キャンバス	第52回二紀展/大分市美術館蔵
103	俺はドラゴン(2)	1999	162.1 × 227.3	油彩・キャンバス	第53回二紀展
104	俺はドラゴン(3)	1998	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	個展
105	俺はドラゴン(4)	1998	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	
106	早朝の知らせ	2001	181.8 × 227.3	油彩・キャンバス	第55回記念二紀展
107	9・11	2002	181.8 × 227.3	油彩・キャンバス	第56回二紀展
108	木霊	2002	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	
109	木霊	2002	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	2002年春季県美展/大分市美術館蔵
110	雲の上の耳と椅子(1)	2004	227.3 × 181.8	油彩・キャンバス	第58回二紀展
111	闖入	2003	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	
112	闖入	2003	181.8 × 227.3	油彩・キャンバス	第57回二紀展
113	耳と椅子	2005	227.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第59回二紀展
114	雲の上の耳と椅子(2)	2006	227.3 × 181.8	油彩・キャンバス	第60回記念二紀展/宮永賞
115	耳	2007	227.3 × 181.8	油彩・キャンバス	第61回二紀展
116	雲の上の耳	2008	227.3 × 181.8	油彩・キャンバス	第62回二紀展

### 3. 1. 3. 郷土在住作家展Ⅲ 脇坂秀樹展

**概要** 脇坂秀樹は、1930（昭和5）年に西国東郡大田村に生まれ、1954年大分大学学芸学部を卒業後、県内の中・高等学校で教鞭をとる一方、本格的に油彩画の制作に取り組み、光風会展、後、東光会展を中心に活躍を続け、1959年の第25回東光会展に《灼土の丘》を出品し入賞した。翌年には、《家族》を出品し、東光会会友となり、1964年には、東光会会員に推挙された。

また、2001（平成13）年から2004年まで、第7代大分県美術協会会長を務め、現在は大分県美術協会名誉会員として、大分県美術の振興に尽力している。

本展では、初期の「人物」、中期の「街」、近年の「風景」などのシリーズの中から、代表作及び関連資料を展示し、洋画家脇坂秀樹の活動の全容を紹介した。

**会期** 平成21年6月13日（土）～7月5日（日） 公開日数 20日間

**主催** 大分市美術館

**後援** 大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分、OCT大分ケーブルテレコム

**出品点数** 油彩画127点、水彩画13点、版画24点、日本画2点、パステル画1点及び関連資料

**観覧者数** 2,204人

**観覧料** 一般500（400）円／高大生300（250）円、中学生以下無料  
※（ ）内は20人以上の団体料金

**作家トーク** 6月20日（土） 午後2時～3時30分 ハイビジョンホール 101人  
※作家病氣療養中のため、御子息によるトークに変更し、開催した。

**展示解説** ■美術館職員による展示解説（要観覧料）  
日時 会期中毎週水曜日 午後2時～  
場所 企画展示室  
参加者 34人

**印刷物** ポスターB2判・チラシA4判

**関連記事** 「画業振り返る170点 脇坂秀樹展始まる」『大分合同新聞』6月13日  
「脇坂秀樹展「生の証し」回顧録」『大分合同新聞』6月18日

（担当 大神）

目録

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
1	静物	1952	37.9 × 45.5	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
2	秋相	1949	54.0 × 85.0	紙本着色	第7回大分県美術協会展
3	廃墟	1950	52.0 × 58.0	紙本着色	第9回大分県美術協会展/K氏賞
4	ふるさと	1951	24.3 × 33.4	パステル・紙	
5	晩秋(九翠溪)	1952	33.3 × 45.5	油彩・キャンバス	個人蔵
6	Y嬢像	1955	72.7 × 53.0	油彩・キャンバス	第1回別府市美術展(賞)/別府市美術館蔵
7	一隅	1953	72.7 × 53.0	油彩・キャンバス	第12回大分県美術展
8	少女	1952	45.5 × 37.9	油彩・キャンバス	第1回カンナ会展
9	自像(証)	1953	45.5 × 37.9	油彩・キャンバス	第1回カンナ会展
10	赤衣	1954	72.7 × 53.0	油彩・キャンバス	第2回カンナ会展
11	静物習作	1952	24.3 × 33.4	油彩・キャンバス	個人蔵
12	読書	1952	90.9 × 116.7	油彩・キャンバス	第11回大分県美術協会展/H氏賞/大分県立別府青山高等学校蔵
13	黒衣	1954	116.7 × 90.9	油彩・キャンバス	第40回光風展
14	風景	1955	65.2 × 90.9	油彩・キャンバス	第41回光風展
15	枯花と少女	1956	116.7 × 80.3	油彩・キャンバス	第42回光風展/個人蔵
16	静物	1956	72.7 × 53.0	油彩・キャンバス	個人蔵
17	湿地の家	1956	53.0 × 72.7	油彩・キャンバス	第18回大分県美術展/個人蔵
18	湿地の家	1956	80.3 × 116.7	油彩・キャンバス	第19回大分県美術展/大分県美術協会賞/大分県立芸術会館蔵
19	廃物再生工場	1957	72.7 × 116.7	油彩・キャンバス	第43回光風展/大分製紙蔵
20	風景	1959	80.3 × 116.7	油彩・キャンバス	第45回光風展
21	静弾	1958	116.7 × 90.9	油彩・キャンバス	第44回光風展/別府市美術館蔵
22	風景	1959	80.3 × 116.7	油彩・キャンバス	第25回東光展(ペンテル賞)
23	飼われた鳥	1959	90.9 × 60.6	油彩・キャンバス	第23回大分県美術展
24	灼土の丘	1959	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第25回東光展(ペンテル賞)/TOSテレビ大分蔵
25	家族	1960	116.7 × 90.9	油彩・キャンバス	第26回東光展(会友推挙)/グローバルライフ生石
26	建物の丘	1960	90.9 × 116.7	油彩・キャンバス	第26回東光展(会友推挙)
27	剥落する偶像	1961	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第27回東光展/第5回安井賞展/大分県立芸術会館蔵
28	木のある風景	1962	72.7 × 90.9	油彩・キャンバス	第29回大分県美術展
29	列車軌道のある風景	1963	60.6 × 90.9	油彩・キャンバス	第31回大分県美術展
30	廃物再生工場	1963	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	第29回東光展
31	炉	1964	90.9 × 60.6	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
32	残象	1964	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第30回東光展(会員推挙)/大分市美術館蔵
33	飼われた鳥Ⅱ	1964	90.9 × 60.6	油彩・キャンバス	第33回大分県美術展
34	船がある	1965	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	第31回東光展/大分市美術館蔵
35	家族	1965	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	第31回東光展
36	残象	1965	130.3 × 193.9	油彩・キャンバス	第35回大分県美術展
37	シグナルのある空間	1966	162.1 × 112.1	油彩・キャンバス	第32回東光展
38	杵築の竹林	1968	60.6 × 90.9	油彩・キャンバス	春季大分県美術展/妙徳寺蔵
39	少年	1968	145.5 × 89.4	油彩・キャンバス	第34回東光展
40	坐像	1968	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	第4回大分県美術展/大分県美術協会賞
41	街がある	1969	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第35回東光展
42	習作	1960	100.0 × 72.7	水彩・紙	第5回大分県水彩画展
43	こども	1962	100.0 × 72.7	水彩・紙	第7回大分県水彩画展

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
44	鳩の家	1964	100.0 × 72.7	水彩・紙	第4回みずえ6人展
45	画室の夜	1966	100.0 × 72.7	水彩・紙	第6回みずえ6人展
46	赤い椅子で	1968	72.7 × 53.0	水彩・紙	第8回みずえ6人展
47	七つの日	1968	72.7 × 53.0	水彩・紙	
48	パイプのある静物	1972	72.7 × 53.0	水彩・紙	第12回みずえ6人展
49	ランプのある静物	1972	72.7 × 53.0	水彩・紙	第12回みずえ6人展／個人蔵
50	標識による人々	1971	145.5 × 90.9	油彩・キャンバス	第7回大分県美術展
51	門	1968	145.5 × 89.4	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
52	塔のある緑の風景	1970	112.1 × 145.5	油彩・キャンバス	第36回東光展
53	倉がある	1971	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第37回東光展(委員推挙)
54	運ばれる空間	1972	90.9 × 145.5	油彩・キャンバス	第38回東光展
55	運ばれる空間	1978	162.1 × 97.0	油彩・キャンバス	第44回東光展
56	春蘭	1968	11.5 × 14.0	木版画	朱竹表紙原画
57	石仏三尊	1979	15.0 × 16.0	木版画	ふるさとのうた表紙原画
58	石仏(陽)	1979	10.5 × 15.0	木版画	
59	石仏(陰)	1979	10.5 × 15.0	木版画	
60	湧雲由布岳(陽)	1979	14.0 × 13.0	木版画	ふるさとのうた表紙原画
61	湧雲由布岳(陰)	1979	11.5 × 13.0	木版画	
62	ガラスのドクダミ	2004	11.5 × 13.0	木版画	朱竹表紙原画
63	白木蓮	2004	11.5 × 13.0	木版画	新春版画展
64	ばら	2004	11.5 × 13.0	木版画	新春版画展
65	落の花	2004	12.0 × 14.0	木版画	朱竹表紙原画
66	定家桂	2004	11.5 × 13.0	木版画	新春版画展
67	風蘭	2004	11.5 × 13.0	木版画	新春版画展
68	胡蝶蘭	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
69	花の咲き初め	2004	20.0 × 20.0	木版画	新春版画展
70	仏頭	2004	11.0 × 12.5	木版画	新春版画展
71	杜の住人	2005	19.8 × 14.5	木版画	第14回個展
72	黒い壺のくちなし	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
73	ガラスの花A	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
74	ガラスの花B	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
75	初夏の花	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
76	千両	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
77	寒木立	2004	9.5 × 10.5	木版画	新春版画展
78	春蘭一茎二花	2004	23.0 × 19.0	木版画	新春版画展
79	一葉草	2004	24.0 × 21.0	木版画	新春版画展
80	犬吠崎(初秋)	1995	45.5 × 53.0	油彩・キャンバス	第8回個展
81	初秋の海	1973	31.8 × 40.9	油彩・キャンバス	大分の風物40展／個人蔵
82	秋景由布	1991	45.5 × 53.0	油彩・キャンバス	個人蔵
83	山と邨	2003	31.8 × 40.9	油彩・キャンバス	個人蔵
84	海景(関崎)	1997	24.3 × 33.4	油彩・キャンバス	第9回個展／個人蔵
85	晩秋	1970	60.6 × 72.7	油彩・キャンバス	第2回個展／グローバルライフ生石
86	伐株山(秋)	1984	45.5 × 53.0	油彩・キャンバス	第5回個展／個人蔵
87	邨(保戸島)	1973	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第39回東光展
88	剥落する偶像	1974	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第40回東光展
89	残象	1975	97.0 × 145.5	油彩・キャンバス	第41回東光展
90	在る偶像	1979	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第45回東光展／TOSテレビ大分蔵
91	ある風景	1979	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第15回大分県美術展／大分県美術協会賞／第46回東光展／大分県立芸術会館蔵
92	風景(春暁)	1990	89.4 × 130.3	油彩・キャンバス	第26回大分県美術展
93	風景'83	1983	97.0 × 162.0	油彩・キャンバス	第49回東光展／大分県立芸術会館蔵

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
94	ある風景	1977	97.0 × 130.3	油彩・キャンバス	第43回東光展
95	風景	1985	162.1 × 97.0	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
96	萌	1984	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第50回東光展
97	海に向かいて	1985	89.4 × 130.3	油彩・キャンバス	第51回東光展
98	山に向かいて	1989	97.0 × 130.3	油彩・キャンバス	第55回東光展／TOSテレビ大分蔵
99	風景(灯)	1989	112.1 × 145.5	油彩・キャンバス	第25回大分県美術展／大分県美術協会賞／第56回東光展
100	画室に花	1991	90.9 × 65.2	油彩・キャンバス	春季大分県美術展／眞覚寺蔵
101	景(高瀬仏)	1993	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	第59回東光展
102	風景	1992	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	第58回東光展
103	荘と叢	1989	90.9 × 116.7	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
104	雲たつ朝	1994	112.1 × 145.5	油彩・キャンバス	春季大分県美術展／富岡公民館蔵
105	風景(灯)	1991	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	
106	風景(競技場)	1994	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	第60回東光展
107	変容する丘	1994	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第30回大分県美術展／大分県美術協会賞／第61回東光展
108	変容した丘	1997	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第63回東光展
109	路と月	1999	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第65回東光展
110	燈と塔	1998	80.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第34回大分県美術展
111	海景(関崎)	1997	89.4 × 130.3	油彩・キャンバス	個人蔵
112	木のある風景	1998	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第64回東光展
113	路と塔	2000	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第66回東光展
114	変容する街Ⅱ	2001	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第67回東光展
115	里山の風景	2003	90.9 × 90.9	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
116	里山の風景Ⅱ	2002	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第68回東光展
117	里山の風景(O2)	2002	90.9 × 90.9	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
118	里山の風景(邨)	2003	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第69回東光展
119	山容(春)	2003	90.9 × 90.9	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
120	山と邨	2003	97.0 × 130.3	油彩・キャンバス	第39回大分県美術展／グローバルライフ生石
121	春暁	2008	90.9 × 116.7	油彩・キャンバス	第75回東光展
122	少女	1954	33.4 × 24.3	油彩・キャンバス	個人蔵
123	黒の中	1969	40.9 × 31.8	水彩・紙	第9回大分県水彩画展／個人蔵
124	小布施の土苗	1999	33.4 × 24.3	油彩・キャンバス	個人蔵
125	露草図	1980	37.9 × 45.5	水彩・紙	第4回個展／個人蔵
126	暁明に逝く	1980	40.9 × 24.5	油彩・キャンバス	
127	杜の住人	1964	33.4 × 24.3	油彩・キャンバス	個人蔵
128	小野屋風景	1970	45.5 × 53.0	油彩・キャンバス	第2回個展
129	パンジー	1980	10.5 × 12.5	水彩・紙	個人蔵
130	ガラスの十葉	1980	10.5 × 12.5	水彩・紙	個人蔵
131	復位仏頭	1997	33.4 × 24.3	油彩・キャンバス	第9回個展
132	仏頭	1973	50.0 × 60.6	油彩・キャンバス	個人蔵
133	建物の丘	1960	36.5 × 50.0	水彩・紙	個人蔵
134	桜島(1)	1990頃	17.9 × 13.9	油彩・キャンバス	個人蔵
135	湧雲由布	1971	21.0 × 26.5	油彩・キャンバス	個人蔵
136	三俣山	1970	22.0 × 27.3	油彩・キャンバス	第2回個展／個人蔵
137	金鱗湖	1977	31.8 × 40.9	油彩・キャンバス	第3回個展／個人蔵
138	安岐ダム湖畔	1977	31.8 × 40.9	油彩・キャンバス	第3回個展
139	雲たつ朝	1994	37.9 × 45.5	油彩・キャンバス	個人蔵
140	ガラスの玉椿	1984	27.3 × 22.0	油彩・キャンバス	第5回個展／個人蔵
141	ガラスの石榴花	1997	31.8 × 31.8	油彩・キャンバス	個人蔵
142	紅白椿	1997	40.9 × 31.8	油彩・キャンバス	個人蔵
143	白椿	1993	33.4 × 19.1	油彩・キャンバス	第7回個展／個人蔵

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
144	椿	1993	33.4 × 21.2	油彩・キャンバス	第7回個展／個人蔵
145	ガラスのむくげ	1994	27.3 × 22.0	油彩・キャンバス	大分県美術協会30周年記念特別展
146	槿花一輪	1984	33.4 × 21.2	油彩・キャンバス	第5回個展／個人蔵
147	秋の実	1980	40.9 × 31.8	油彩・キャンバス	第4回個展／個人蔵
148	たこ壺の秋海棠	1995	53.0 × 40.9	油彩・キャンバス	第8回個展
149	六調子の玉椿	1991	40.9 × 31.8	油彩・キャンバス	第6回個展／個人蔵
150	豊後海	1980	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	第4回個展／個人蔵
151	双椿(白)	1993	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	個人蔵
152	向陽花	1980	13.9 × 17.9	油彩・キャンバス	第4回個展
153	鶏頭花	1977	17.9 × 13.9	油彩・キャンバス	第3回個展／個人蔵
154	花(むくげ)	1977	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	第3回個展／個人蔵
155	一輪白椿	1997	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	個人蔵
156	牡丹	1970	13.9 × 17.9	油彩・キャンバス	個人蔵
157	小壺の椿	1993	22.1 × 16.6	油彩・キャンバス	個人蔵
158	白い花	1999	72.7 × 53.0	油彩・キャンバス	個人蔵
159	カサブランカ	1997	40.9 × 31.8	油彩・キャンバス	第9回個展／個人蔵
160	白い花Ⅱ	1999	53.0 × 40.9	油彩・キャンバス	個人蔵
161	花の静物	1970	45.5 × 37.9	油彩・キャンバス	個人蔵
162	藪椿	2005	40.9 × 31.8	油彩・キャンバス	第14回個展
163	垣根ばら	2001	33.4 × 21.2	油彩・キャンバス	第11回個展／個人蔵
164	花	2001	33.4 × 33.4	油彩・キャンバス	個人蔵
165	赤い盆	2001	22.0 × 27.3	油彩・キャンバス	第11回個展／個人蔵
166	秋桜花	2008	53.0 × 45.5	油彩・キャンバス	第15回個展
167	白い花	1999	53.0 × 40.9	油彩・キャンバス	個人蔵

### 3. 1. 4. みんな大好きアンパンマン やなせたかしの世界

**概要** 誕生から40年近くの年月が経ち、老若男女を問わず多くの人々に愛される国民的英雄「アンパンマン」は、やなせたかしにより生み出された。

やなせは50年以上に及ぶ創作活動の中で、「アンパンマン」の他にも、「やさしいライオン」、「チリンのすず」などの絵本作家として著名であり、また、童謡「てのひらを太陽に」の作詞者としても知られている。

本展では漫画家・絵本作家としてのみならず、画家やデザイナー、詩人、さらには編集者として、多岐にわたり活躍を続けてきた創作者やなせたかしの魅力的な作品の数々を一堂に集め、その全貌を紹介した。

**会期** 平成21年7月10日（金）～8月31日（月） 公開日数52日

**主催** 大分市美術館、大分合同新聞社

**後援** NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送エフエム大分、OCT大分ケーブルテレコム

**協力** 有限会社やなせスタジオ、財団法人アンパンマンミュージアム振興財団、株式会社フレーベル館

**企画協力** 株式会社七彩社

**出品点数** アクリル画、版画、絵本原画等166点

**観覧者数** 42,488人

**観覧料** 一般800（600）円／高大生600（400）円、中学生以下無料  
※（ ）内は20人以上の団体料金 ※子ども（中学生以下）の同伴者は500円

**印刷物** ・ポスターB2判、チラシA4判、ワークシートA4判3種類（アート・ワンダーランド2009と共通）

**関連記事** 「愛と勇気たっぷり 90年のあゆみ、166点ずらり やなせたかしの世界展」『大分合同新聞』夕刊 7月10日  
「アンパンマン原画など166点 やなせたかし展」『読売新聞』7月14日  
「みんな大好きアンパンマン やなせたかしの世界展から 上 てのひらを太陽に」『大分合同新聞』夕刊 7月16日  
「みんな大好きアンパンマン やなせたかしの世界展から 下 てのひらを太陽に」『大分合同新聞』夕刊 7月17日  
「やなせたかしの芸術にふれて 児玉成弘」『大分合同新聞』夕刊 7月30日  
「やなせたかしの世界展入場者が2万人突破」『大分合同新聞』夕刊 8月7日  
「記念グッズ うれしい やなせたかし展 3万人突破」『大分合同新聞』8月19日  
「4万人を突破 やなせたかしの世界展」『大分合同新聞』8月31日

（担当 岡村）

目録

No.	作品名	寸法 (cm)
1	2005年1月	57.6×56.6
2	2005年2月	57.6×56.6
3	2005年3月	57.6×56.6
4	2005年4月	57.6×56.6
5	2005年5月	57.6×56.6
6	2005年6月	57.6×56.6
7	2005年7月	57.6×56.6
8	2005年8月	57.6×56.6
9	2005年9月	57.6×56.6
10	2005年10月	57.6×56.6
11	2005年11月	57.6×56.6
12	2005年12月	57.6×56.6
13	雲と画家	44.0×35.0
14	波の鳥	48.0×26.5
15	落ち葉しぐれ	48.0×26.5
16	イルカのサーフィン	48.0×26.5
17	放水!	48.0×26.5
18	紙ひこうき	40.0×37.0
19	リアリズム	48.0×26.5
20	“チュー”リップ	48.0×26.5
21	スーパーウルトラジャンプ	48.0×26.5
22	落ち葉の昇天	48.0×26.5
23	やさしいライオン 1	49.4×54.4
24	やさしいライオン 2	49.4×54.4
25	やさしいライオン 3	49.4×54.4
26	やさしいライオン 4	49.4×54.4
27	やさしいライオン 5	49.4×54.4
28	やさしいライオン 6	49.4×54.4
29	やさしいライオン 7	49.4×54.4
30	やさしいライオン 8	49.4×54.4
31	やさしいライオン 9	49.4×54.4
32	やさしいライオン 10	49.4×54.4
33	やさしいライオン 11	49.4×54.4
34	やさしいライオン 12	49.4×54.4
35	やさしいライオン 13	49.4×54.4
36	やさしいライオン 14	49.4×54.4
37	やさしいライオン 15	49.4×54.4
38	やさしいライオン 16	49.4×54.4
39	やさしいライオン 17	49.4×54.4
40	やさしいライオン 18	49.4×54.4
41	やさしいライオン 19	49.4×54.4
42	やさしいライオン 20	49.4×54.4
43	チリンのすず 1	67.0×65.0

No.	作品名	寸法 (cm)
44	チリンのすず 2	67.0×65.0
45	チリンのすず 3	67.0×65.0
46	チリンのすず 4	67.0×65.0
47	チリンのすず 5	67.0×65.0
48	チリンのすず 6	67.0×65.0
49	チリンのすず 7	67.0×65.0
50	チリンのすず 8	67.0×65.0
51	チリンのすず 9	67.0×65.0
52	チリンのすず 10	67.0×65.0
53	チリンのすず 11	67.0×65.0
54	チリンのすず 12	67.0×65.0
55	チリンのすず 13	67.0×65.0
56	チリンのすず 14	67.0×65.0
57	チリンのすず 15	67.0×65.0
58	チリンのすず 16	67.0×65.0
59	チリンのすず 17	67.0×65.0
60	チリンのすず 18	67.0×65.0
61	チリンのすず 19	67.0×65.0
62	チリンヌイグルミ	—
63	靴ぬいで踏めばやさしい春の芝	60.5×49.0
64	紋白にさそわれ迎る丘の道	60.5×49.0
65	野をゆけば午睡の蝶が眼をさます	60.5×49.0
66	ぼくらの家がこの街で一番暖かい	60.5×49.0
67	買ったての赤鉛筆に似る秋の山	60.5×49.0
68	まひる野に夢落下傘ふりしきる	60.5×49.0
69	デュエット・燃える恋	42.5×41.5
70	星降る夜に	43.0×43.0
71	ほほえみ	43.0×43.0
72	笛の調べ	43.0×43.0
73	愛のハーモニー	43.0×43.0
74	正装の顔してのぼる初日の出	55.0×55.0
75	ささめゆき水仙咲いたうれしげに	55.0×55.0
76	色鉛筆で描いたか若い草萌える	55.0×55.0
77	ピーマンに閉じこめられたか五月闇	55.0×55.0
78	野をゆけば午睡の蝶が眼をさます	55.0×55.0
79	赤い傘させば華やぐ梅雨の雨	55.0×55.0
80	秋燈遠くきこえるワルツかな	55.0×55.0
81	波しぶきやがて崩れる砂の家	55.0×55.0
82	夏の日の恋も砂丘に埋もれて	55.0×55.0
83	廃線に幻影電車走る秋	55.0×55.0
84	秋の夢ハンテンボクの葉に乗って	55.0×55.0
85	星屑こぼれて終わる世紀末	55.0×55.0
86	てのひらを太陽に	60.7×79.2

No.	作品名	寸法 (cm)
87	てのひらを太陽に	78.0×112.5
88	好きな風景	64.0×78.5
89	生命の春	126.0×71.0
90	あこがれ	125.0×57.5
91	人生なんかにつまづいて	123.5×39.5
92	絶望のとなり	63.5×108.5
93	しあわせよカタツムリにのって	64.0×78.5
94	あるいちにちがあった	63.5×109.5
95	ちいさなてのひらでも	78.0×112.5
96	あるいちにちがあった・・・	43.7×46.7
97	絶望のとなりにだれかがそっと腰かけた	43.7×46.7
98	勇気がぼくにささやいた涙こぼすながんばれと	43.7×46.7
99	ほほえむことを忘れちゃいけない	43.7×46.7
100	心と心がふれあってなんにもいわずにわかること	43.7×46.7
101	一元玉は・・・	37.0×44.5
102	ごはんつぶひとつづつに・・・	37.0×44.5
103	夕陽よ君はさびしいか・・・	37.0×44.5
104	うさぎが草をたべている・・・	37.0×44.5
105	る・・・	37.0×44.5
106	ぼくはちいさな雲だから・・・	37.0×44.5
107	あるいちにちがあった・・・	37.0×44.5
108	絶望のとなりに・・・	37.0×44.5
109	麦はやっと・・・	37.0×44.5
110	タンポポのわたげには・・・	37.0×44.5
111	屑を入れるということ・・・	37.0×44.5
112	しあわせよあわてるな・・・	37.0×44.5
113	おいらも私もみなさんも・・・	37.0×44.5
114	ことりが指にとまった・・・	37.0×44.5
115	て・・・	37.0×44.5
116	アンパンマンのマーチ	77.4×112.0
117	散華 アンパンマンとドキンちゃん	29.0×25.0
118	散華 アンパンマンとばいきんまん	29.0×25.0
119	散華 アンパンマン	29.0×25.0
120	散華 アンパンマン	43.0×43.0
121	コキンちゃん	34.2×34.2
122	アンパンマンとあおいなみだ 1	67.4×64.9
123	アンパンマンとあおいなみだ 2	67.4×64.9
124	アンパンマンとあおいなみだ 3	67.4×64.9
125	アンパンマンとあおいなみだ 4	67.4×64.9
126	アンパンマンとあおいなみだ 5	67.4×64.9

No.	作品名	寸法 (cm)
127	アンパンマンとあおいなみだ 6	67.4×64.9
128	アンパンマンとあおいなみだ 7	67.4×64.9
129	アンパンマンとあおいなみだ 8	67.4×64.9
130	アンパンマンとあおいなみだ 9	67.4×64.9
131	アンパンマンとあおいなみだ 10	67.4×64.9
132	アンパンマンとあおいなみだ 11	67.4×64.9
133	アンパンマンとあおいなみだ 12	67.4×64.9
134	アンパンマンとあおいなみだ 13	67.4×64.9
135	アンパンマンとあおいなみだ 14	67.4×64.9
136	アンパンマンとあおいなみだ 15	67.4×64.9
137	アンパンマンとあおいなみだ 16	67.4×64.9
138	アンパンマンとあおいなみだ 17	67.4×64.9
139	アンパンマンとあおいなみだ 18	67.4×64.9
140	アンパンマンとたのしい仲間たち	116.8×91.0
141	てのひらを太陽に	116.8×91.0
142	アンパンマンバルーン	116.8×91.0
143	秋の夕暮れのパン工場	116.8×91.0
144	ゴミ怪獣ダストモデーモン	116.8×91.0
145	不思議沼の影	180.0×120.0
146	かくれんぼの木	180.0×120.0
147	顔をあげるアンパンマン	180.0×120.0
148	オーロラの世界へ	91.0×72.7
149	カツラシマンと鉄火のまきちゃん	91.0×72.7
150	沼に落ちたドロンコサニー	91.0×72.7
151	青ざめるロールパンナ	116.8×91.0
152	ほしのごデカルン、ヒカルン	37.0×37.5
153	アンパンマン号となかまたち	37.0×37.5
154	うきうきダンス	37.0×37.5
155	はみがきまん大活躍	37.0×37.5
156	アンパンマンとラッピー	37.0×37.5
157	アンパンマンとばいきんまん	37.0×37.5
158	アンパンマン	43.0×35.0
159	朝日の海を越えて	91.0×72.7
160	石になったメロンパンナ	13.5×10.0
161	石になったアンパンマン	13.5×10.0
162	石になったばいきんまん	16.0×10.0
163	石になったドキンちゃん	15.0×10.0
164	筒花入 おむすびまんとかむすびまん	8.2×12.5
165	筒花入 おむすびまんとかむすびまん	7.7×19.3
166	筒花入 ナガネギマン	7.7×19.3

### 3. 1. 5. 日本近代洋画への道ー山岡コレクションを中心にー

**概要** 幻のコレクションとされていたヤンマーディーゼルの創業者である山岡孫吉(1888ー1962)氏の収集品の中から、日本洋画の父ともいわれる高橋由一をはじめ、渡仏し初のサロン入選者となった五姓田義松、外光派の清新な画風を取り入れた黒田清輝、日本の風土を意識し独自性を追求した藤島武二、青木繁など、日本近代洋画の草創から確立期に活躍した、約 70 作家、180 点の作品により、日本近代洋画の歩みを紹介した。

**会期** 平成 21 年 9 月 5 日 (土) ~10 月 18 日 (日) 公開日数 40 日

**主催** 大分市美術館

**後援** 大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム

**協力** (財)日動美術財団

**出品点数** 洋画など 180 点

**観覧者数** 6,134 人

**観覧料** 一般 800 円 (600 円) / 高大生 600 円 (400 円)  
※( )内は 20 人以上の団体料金

**関連行事** ■講演会 (入場無料)

日時 10 月 4 日 午後 1 時 30 分~3 時

場所 ハイビジョンホール

講師 菅 章 (当館副館長)

演題 「日本近代洋画の先駆者 藤 雅三の軌跡」

参加者 58 名

■美術館職員による展示解説 (要観覧料)

日時 会期中毎週水曜日午後 2 時~30 分程度

場所 企画展示室

参加者 137 名

**印刷物** ・ポスターB2 版、チラシ A4 版

**関連記事** 「“絵画新時代の夜明け”を感じて」『大分合同新聞』夕刊 9 月 5 日  
「日本近代洋画への道<上> 高橋由一「鮭図」」『大分合同新聞』夕刊 9 月 10 日  
「日本近代洋画への道<下> 青木繁「二人の少女」」『大分合同新聞』夕刊 9 月 11 日  
「日本近代洋画の歴史をたどる」『大分合同新聞』夕刊 9 月 17 日  
「高名画家ずらり 日本近代洋画への道」『大分合同新聞』夕刊 10 月 8 日  
「日本近代洋画の先駆者 藤雅三」『大分合同新聞』夕刊 10 月 12 日

(担当 野田)

目録

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法
1	伝 信方	達磨図		37.0×51.6	墨・彩色
2	小川破笠	海魚	1740	23.3×40.2	墨・彩色
3	円山応挙	支那風景/三十三間堂		各22.0×27.0	木版・手彩色
4	伝 円山応挙	港の図	1767	36.0×31.5	墨・彩色
5	司馬江漢	風景		49.0×68.0	彩色
6	司馬江漢	房州利根河今井渡		43.5×54.3	墨
7	司馬江岷	七里ヶ浜		27.3×50.5	泥絵具
8	司馬道士	雲仙牧羊図		30.7×43.6	泥絵具
9	垂欧堂田善	浅草観音図		25.0×52.0	銅版画
10	伝 小田野直武	ライオン図		90.0×33.1	墨・彩色
11	立原杏所	鳴門風景		60.0×95.5	墨・彩色
12	鋏形恵斎	洋人舞踏図		16.1×25.2	墨
13	安田雷洲	外国戦争図 (ナポレオン戦争図)		54.5×69.3	墨・彩色
14	作者不詳	婦女弹琴図		50.5×44.5	泥絵具
15	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人館		104.5×58.3	泥絵具
16	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人図		50.1×31.3	油彩
17	長崎系洋風画 (伝 平賀源内)	薬草会議図		45.7×90.2	油彩
18	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人夫妻図		158.0×83.5	油彩
19	泥絵 (作者不詳)	外桜田風景		31.6×47.0	泥絵具
20	泥絵 (作者不詳)	高縄風景		31.6×47.3	泥絵具
21	泥絵 (作者不詳)	向島風景		25.0×52.5	泥絵具
22	チャールズ・ワーグマン	廣東夫人	1858	16.3×14.7	鉛筆
23	チャールズ・ワーグマン	支那夫人	1858	21.0×13.5	水彩
24	チャールズ・ワーグマン	廣東風景	1858	17.0×21.5	水彩
25	チャールズ・ワーグマン	廣東風景	1858	20.3×22.0	水彩
26	チャールズ・ワーグマン	廣東風景	1858	22.7×25.2	水彩
27	チャールズ・ワーグマン	廣東風景		10.0×13.2	水彩
28	チャールズ・ワーグマン	長久保風景		23.7×29.5	鉛筆・水彩
29	チャールズ・ワーグマン	富士山遠望		23.0×30.5	水彩
30	チャールズ・ワーグマン	上州風景		23.5×30.7	鉛筆・水彩
31	チャールズ・ワーグマン	東海道風景		17.8×25.5	水彩
32	チャールズ・ワーグマン	信州風景		25.8×35.5	水彩
33	チャールズ・ワーグマン	箱根風景		22.1×29.5	水彩
34	チャールズ・ワーグマン	七里ヶ浜		22.1×36.1	水彩
35	チャールズ・ワーグマン	新潟風景	1870	23.5×30.0	水彩
36	チャールズ・ワーグマン	藩士扮装図		27.5×22.5	水彩
37	チャールズ・ワーグマン	車夫		14.0×19.3	鉛筆
38	チャールズ・ワーグマン	明治の侍		22.5×18.7	水彩
39	チャールズ・ワーグマン	外国美人図		36.3×24.6	淡彩
40	チャールズ・ワーグマン	漫画 (伍長は答えた。憲兵さん、あなたの言う通り)		24.0×24.0	鉛筆・水彩
41	チャールズ・ワーグマン	桶屋		19.5×25.0	油彩
42	チャールズ・ワーグマン	武士の図		41.6×32.4	油彩
43	チャールズ・ワーグマン	小漁夫		38.0×22.8	油彩
44	チャールズ・ワーグマン	百合図	1878	81.7×60.5	油彩
45	チャールズ・ワーグマン	東禅寺浪士乱入図		34.8×51.5	水彩
46	チャールズ・ワーグマン	浦の風景		45.5×76.5	油彩
47	チャールズ・ワーグマン	ワーグマン夫人像		44.9×30.9	水彩
48	エドワード・キョソーネ	川上操六中将図	1896	59.0×45.5	木炭
49	ジョルジュ・ビゴー	万歳		30.2×19.3	油彩
50	ジョルジュ・ビゴー	武士の子		18.5×12.0	石版画
51	ジョルジュ・ビゴー	普仏戦争	1893	40.7×56.0	石版画
52	荒木寛畝	春芳争妍図		38.0×54.5	彩色
53	橋本雅邦	武官測量図		24.4×26.5	水彩

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法
54	徳川慶喜	池畔風景		17.6×33.0	油彩
55	床次正精	福山城		55.1×94.6	油彩
56	床次正精	港湾図		20.1×50.1	油彩
57	田村宗立	人物	1880	33.8×24.0	油彩
58	小林清親	雪の日		30.0×40.0	硝子絵
59	安達吟光	日本橋界限		34.5×52.0	油彩
60	小林安治	芸妓立姿		78.5×35.1	墨・彩色
61	権田守吉	各藩武士扮装図 (模写・近藤正純原画) 画帳		各37.8×26.0	墨・彩色
62	高橋由一	鮭図	1879-80	85.9×24.6	油彩
63	高橋由一	丁髷姿の自画像	1866-67	48.0×38.8	油彩
64	高橋由一	三偉人 リンカーン、ビスマルク、ケマル・パシヤ		36.3×28.6	墨・淡彩
65	高橋由一	青年図	1874	19.0×18.0	水彩
66	高橋由一	住吉神社	1874	28.0×20.0	水彩
67	高橋由一	本牧海岸	1877	51.7×63.9	油彩
68	高橋由一	品川海晏寺紅葉図	1880	45.7×69.9	油彩
69	高橋由一	驟雨図	1877頃	45.5×76.2	油彩
70	高橋由一	猫図		21.5×25.0	水彩
71	伝 高橋由一	蔬菜図		48.0×69.5	油彩
72	高橋由一	鯛図		54.6×75.9	油彩
73	五姓田芳柳	美人吹笛図		64.0×33.1	彩色
74	五姓田義松	少年法界坊		31.5×24.2	水彩
75	渡辺文三郎	多摩夕照図	1878	40.7×53.5	水彩
76	渡辺幽香	溪流		33.7×91.2	油彩
77	二世 五姓田芳柳	大楠公		130.4×96.0	油彩
78	二世 五姓田芳柳	婦人像 (井田讓夫人)		53.0×45.5	油彩
79	二世 五姓田芳柳	自画像		53.0×45.5	油彩
80	二世 五姓田芳柳	富嶽図		45.2×91.6	油彩
81	山内愚僊	住吉神社	1902	54.0×81.8	油彩
82	浅井忠	外国婦人図 (臨模)	1877	52.0×35.0	木炭
83	小山正太郎	山村嫁女 (A)		26.0×33.5	油彩
84	小山正太郎	山村嫁女 (B)		19.2×26.9	油彩
85	高橋源吉	小金井の桜		22.0×34.9	鉛筆・水彩
86	曾山幸彦	お茶の水風景		21.7×30.5	油彩
87	曾山幸彦	洋装少年		36.5×28.5	コンテ
88	百武兼行	ブルガリアの女	1882	93.3×71.3	油彩
89	国沢新九郎	英国風景 (初春郊外)		49.9×60.4	油彩
90	山本芳翠	内海風景		19.4×36.2	油彩
91	山本芳翠	日の出		20.5×33.0	油彩
92	山本芳翠	婦女横笛		31.5×42.4	油彩
93	山本芳翠	鬼と少女		44.4×33.4	油彩
94	山本芳翠	琉球風景 (A)	1887-88	46.9×37.0	油彩
95	山本芳翠	琉球風景 (B)	1887-88	46.8×37.0	油彩
96	山本芳翠	議会スケッチ (A)	1887	35.5×44.6	墨・彩色
97	山本芳翠	議会スケッチ (B)	1887	35.0×44.6	墨・彩色
98	川村清雄	バルスレイケン像		65.2×53.1	油彩
99	川村清雄	双鶏の図		45.8×87.5	油彩
100	川村清雄	花の宴		48.7×92.5	油彩
101	川村清雄	ベニス風景		91.2×45.3	油彩
102	五姓田義松	富嶽図		26.3×48.6	油彩
103	五姓田義松	七里ヶ浜		30.3×45.8	油彩
104	五姓田義松	塩原風景		34.3×48.6	油彩
105	五姓田義松	駿河湾風景		42.6×72.8	油彩
106	五姓田義松	人形の着物	1883	152.5×115.6	油彩
107	彭城貞徳	静物		73.5×150.5	油彩

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法
108	彭城貞徳	油絵屏風	19世紀	150.3×325.0	油彩
109	高橋勝蔵	桑港海岸	1893	23.4×35.7	水彩
110	高橋勝蔵	函館港	1901	32.5×48.8	水彩
111	高橋勝蔵	カリフォルニア風景		25.0×35.8	水彩
112	合田清	晩婦 (模写・エミール・アダン原画)	1886	19.6×30.5	木口木版
113	松岡寿	ホルバインの「エラスムス」臨模		44.0×35.3	鉛筆
114	山下りん	ヤコブ像 (使徒之図)		71.2×58.0	油彩
115	山下りん	機密の晩餐		27.3×48.7	油彩
116	ラゲーザ玉	蓮池		30.5×91.0	油彩
117	ラゲーザ玉	保津川の溪流		65.0×99.8	油彩
118	渡辺幽香	房州根本海岸	1897	49.5×95.0	油彩
119	山本芳翠	けしと小鳥	1892	40.6×55.6	油彩
120	山本芳翠	菊図		86.5×42.8	油彩
121	小山正太郎	吉野山遠望		33.6×45.7	油彩
122	小山正太郎	山村風景		33.5×45.5	油彩
123	小山正太郎	御嶽村遠望	1892	27.0×44.8	鉛筆・水彩
124	小山正太郎	相模川右岸小倉村水車	1906	44.0×28.0	鉛筆
125	小山正太郎	妙義山		44.0×28.0	鉛筆
126	小山正太郎	五旬起臥セシ若狭丸ノ甲板	1900	24.0×46.0	鉛筆・水彩
127	小山正太郎	入間西岸笹井村渡頭	1892	25.0×43.5	鉛筆
128	小山正太郎	皆野村	1908	26.3×46.0	鉛筆
129	小山正太郎	青梅風景	1902	56.9×41.8	油彩
130	中村不折	男の裸体	1902頃	80.5×59.5	油彩
131	中村不折	裸体図		125.5×93.2	油彩
132	中村不折	老漁夫	1906	166.9×97.0	油彩
133	二世五姓田芳柳	上杉景勝一笑図	1890	各56.0×41.2	油彩
134	岡精一	搜索 (奈良・般若寺)	1889	87.0×49.4	油彩
135	揚忠三郎	北野天神之図	1889	79.5×66.5	油彩
136	佐久間文吾	天神境内		34.5×26.0	泥絵具
137	佐久間文吾	北野神社		61.4×100.7	油彩
138	満谷国四郎	かりそめの悩み	1907	133.7×88.5	油彩
139	満谷国四郎	かぐや姫	1909	150.7×115.5	油彩
140	渡部審也	百姓		60.7×42.6	油彩
141	渡部審也	猿曳図	1898	124.3×91.2	油彩
142	渡部審也	供待図	1909	100.0×72.8	油彩
143	鈴木烏川	能舞図「末廣」		37.2×91.0	油彩
144	須田輝洲	唐犬と鶏		各24.5×17.9	泥絵具
145	須田輝洲	牡丹と水仙		37.8×74.3	油彩
146	北蓮蔵	静物		60.0×80.4	油彩
147	北蓮蔵	静物 (鼓)		53.0×60.0	油彩
148	二世五姓田芳柳	天津事変		124.7×86.0	油彩
149	東城鉦太郎	平壤攻略図		124.8×86.0	油彩
150	東城鉦太郎	旅順開城	1911	75.8×60.8	油彩
151	中村不折	日本海海戦		72.8×60.7	油彩
152	満谷国四郎	東京慈恵医院行啓		65.6×60.6	油彩
153	鹿子木孟郎	日露役奉天入城		72.0×55.5	油彩
154	ラファエル・コラン	婦人像		38.0×46.3	油彩
155	ラファエル・コラン	洋装の婦人像		26.5×21.5	鉛筆
156	ラファエル・コラン	裸婦		50.0×32.0	鉛筆
157	ラファエル・コラン	横たわる裸婦		20.6×45.0	コンテ
158	久米桂一郎	習作	1889	57.9×30.3	油彩
159	黒田清輝	裸体	1889	62.5×46.0	木炭
160	黒田清輝	昔語り (画稿)	1896頃	60.8×46.3	木炭
161	黒田清輝	清国負傷兵広島着	1894	23.8×14.8	ペン・墨

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法
162	黒田清輝	黒田清兼像	1907	81.1×65.4	油彩
163	黒田清輝	浜の丘 稲村ヶ崎海岸の積藁	1910頃	18.0×13.9	油彩
164	藤島武二	観桜会		32.1×41.0	油彩
165	藤島武二	ヴェニス風景	1908-09	23.6×32.8	油彩
166	長原孝太郎	百合図	1899	67.0×39.4	油彩
167	小林 萬吾	遠州浜名湖		40.9×53.0	油彩
168	湯浅一郎	妓生の図	1913	46.6×37.8	油彩
169	湯浅一郎	緑陰	1900	91.0×70.0	油彩
170	岡田三郎助	彫刻師	1890-91	64.5×45.9	油彩
171	岡田三郎助	久保田米齋像	1901	17.2×13.4	木炭
172	白滝幾之助	霧のテーマズ河 (模写・ターナー原画)		53.5×71.2	油彩
173	和田英作	快晴	1897頃	29.5×45.7	油彩
174	和田英作	近江石山寺紫式部	1925	52.9×41.1	油彩
175	橋本邦助	姉妹		120.5×90.9	油彩
176	小林鐘吉	舞妓図	1909	45.1×33.0	油彩
177	山本森之助	島原城址		42.8×64.5	油彩
178	青木繁	裸体	1903	63.3×46.5	木炭・赤チヨーク
179	青木繁	二人の少女	1909	60.5×45.5	油彩
180	中村彝	肖像	1908	42.6×28.3	油彩

### 3. 1. 6. ラウル デュフィ展 フランスのエスプリ 色彩と線のシンフォニー

**概要** デュフィ(1877-1953)は、フランス北西部の港町ル・アーヴルに生まれ、23歳でパリの国立美術学校に入学。しかし、当時のアカデミックな教育に飽きたらず、フォービスムやセザンヌ等に強く傾倒。そして1920年代には、形態と色彩、それぞれが独立分離し、対象が揺らぐような独特な画風を確立。

以後もその表現を進化させ、簡潔な筆使いと輝くような色彩を駆使して、競馬場、浜辺の風景、音楽会等を描き出し、1937年には、パリ万博の電気館の大壁画制作に従事。最晩年の1952年には、ヴェネチアビエンナーレにおいて、絵画部門の最高賞を受賞。20世紀フランス画壇を代表する作家となった。

本展では、フランス国内所蔵作品を中心とした、油彩、水彩、版画、素描等74点(内、日本初公開約50点)により、デュフィの初期から晩年にいたる華麗な画業を紹介した。

**会期** 平成21年10月23日(金)～12月13日(日) 公開日数47日

**主催** 大分市美術館、大分合同新聞社

**後援** NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分、OCT大分ケーブルテレコム

**企画協力** IS ART INC.

**出品点数** 74点

**観覧者数** 6,720人

**観覧料** 一般1000(800)円／高大生700(500)円、中学生以下無料  
※( )内は20名以上の団体料金

**関連行事** ■大分大学公開講座(大分大学・大分市美術館連携事業)

(1)日 時 11月14日 午後2時～

講 師 大分大学教育福祉科学部准教授 松田 聡氏

演 題 デュフィと音楽 参加者 98人

(2)日 時 11月21日 午後2時～

講 師 大分大学教育福祉科学部准教授 田中 修二氏

演 題 ラウル・デュフィ 色彩、線、光 参加者 84人

■美術館職員による展示解説 (要観覧料)

日 時 会期中毎週水曜日、11月28日、12月5日 午後2時～

参加者 221人

**印刷物** ・ポスターB2版・チラシA4版

**関連記事** 「ラウル デュフィ展」『朝日新聞』夕刊10月21日

「日本初もたっぷり」『大分合同新聞』夕刊10月23日

「三人の水兵」『大分合同新聞』夕刊11月19日

「バッハへのオマージュ」『大分合同新聞』夕刊 11 月 20 日

田中修二「ラウル デュフィ展 光にあふれた世界」『大分合同新聞』11 月 30 日

松田聡「デュフィと音楽」『大分合同新聞』夕刊 12 月 3 日

(担当 宮崎)

## 目録

## 油彩・水彩

	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材
1	セーナ河岸とノートル=ダム寺院	1902	27 x 36.6	木炭、グワッシュ
2	マルセイユの市場	1903	60 x 73	油彩・キャンバス
3	マルティエグの劇場	1903	59 x 80	油彩・キャンバス
4	マルティエグ	1903	44 x 61	油彩・キャンバス
5	自画像	1904	54 x 44	油彩・キャンバス
6	白い帆	1906	57 x 73	油彩・キャンバス
7	開かれた窓	1908	46 x 55	油彩・キャンバス
8	鳥かごのある風景	1913	64 x 49	水彩・紙
9	青い背景のカラーとマムシグサ	1920頃	64 x 49	グワッシュ・紙（織物の下絵）
10	フィレンツェの眺め	1922	43 x 63.3	水彩・紙
11	花束	1922頃	48.5 x 64	水彩・紙
12	青い背景のドレープ	1925頃	46 x 38	グワッシュ・紙（織物の下絵）
13	コンポジション	1925-30	39.5 x 31.5	グワッシュ・紙（織物の下絵）
14	マルセイユ港のアンフィトリテ （海の女神）	1925-30頃	67 x 50	水彩・紙
15	3人の水兵	1926	50 x 64	グワッシュ・紙
16	噴水	1927	46 x 55	油彩・キャンバス
17	ロンドン	1929	50 x 65	水彩・紙
18	黒い背景の花	1930頃	87 x 66	グワッシュ・紙（織物の下絵）
19	腰掛の裸婦	1932	127 x 87	油彩・キャンバス
20	ラングルの風景	1933頃	27 x 70	油彩・キャンバス
21	大きな麦畑	1933	65 x 81	油彩・キャンバス
22	エブソム競馬場の芝生	1933頃	48 x 62	水彩・紙
23	馬とジョッキー	1933-34	48.8 x 64.7	グワッシュ、水彩・紙
24	森の中で乗馬する人々	1933-34	50 x 65	水彩・紙
25	ドーヴィルのパドック	1934頃	50 x 65	水彩・紙
26	競馬場	1934-35頃	19 x 22	油彩・板
27	ドーヴィルのレガッタ	1934	33 x 92	油彩・キャンバス
28	ドーヴィルのレガッタ	1934	33 x 92	油彩・キャンバス
29	コンポジション	1937頃	49 x 64	水彩・紙
30	ラ・サルテ寺院（ヴェネツィア）	1938頃	50.2 x 65.4	水彩・紙
31	ラングルでの収穫	1938頃	25.5 x 50	油彩・板
32	収穫	1939	24 x 33	油彩・パネル
33	（ポッティチェリによる） ヴィーナスの誕生	1940頃	28 x 40	油彩・板
34	窓	1942-44	65 x 50	水彩、グワッシュ、パステル・紙
35	ベルピニャンのジャンヌ・ ダルク通りのアトリエ	1943	46 x 55	油彩・キャンバス
36	庭のテーブル	1943頃	48 x 60	水彩・紙
37	畑の祝祭	1943頃	31.5 x 48	水彩・紙
38	木のある風景	1944	50 x 66	水彩、グワッシュ・紙
39	ディッキー	1945	50.2 x 63.2	水彩・紙
40	青い五重奏	1946	35 x 46	油彩・キャンバス
41	バッハへのオマージュ	1946頃	50 x 61	油彩・ハードボード
42	大オーケストラ	1946頃	81 x 65	油彩・キャンバス
43	ニースのカジノ	1948	50 x 65	水彩・紙
44	カーニバル（ニースの祝日）	1948	38.1 x 46.4	油彩・キャンバス
45	ニースの5月	1948	63 x 47.5	水彩・紙
46	ミュージシャン	1948頃	12.5 x 20	油彩・キャンバス
47	オーケストラ	1948頃	16.5 x 22	油彩・キャンバス
48	五重奏	1948頃	33.2 x 41.4	油彩・キャンバス
49	レガッタ	1948頃	46 x 61	油彩・キャンバス
50	サン=タドレス	1948-52	22 x 26	油彩・キャンバス
51	ホンバーガー一家の庭	1950	50.5 x 65.7	水彩、グワッシュ・紙

	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材
52	メキシカンマリンバンド	1950-52	51 x 66	油彩・ハードボード
53	ヴェネツィアのアルルカン (道化師)	1952	43.5 x 35	水彩・紙

#### 素描

	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材
54	競馬場のギュギュスト	1890	8.5 x 5.5	水彩・紙
55	競馬場のジョッキー	1890	17 x 11	水彩、グワッシュ・紙
56	ドン・サルスト	1890	14 x 9	鉛筆・紙
57	キュービスト的な風景	1909頃	31 x 24.5	鉛筆・紙
58	バラとアマリリス	1925	59 x 48	鉛筆・紙
59	絹織物店の広告	1925頃	28 x 30	鉛筆、グワッシュ・印画紙
60	オークション会場	1935頃	51.5 x 64.5	インク、鉛筆・トレーシングペーパー
61	「私のシャンゼリゼ」	1937	32 x 24.5	インク・トレーシングペーパー
62	ヴィーナスの頭部	1938	20 x 24.5	鉛筆・グラッシングペーパー
63	エクス=レ=バンの部屋	1944	50 x 65	鉛筆・トレーシングペーパー
64	収穫の風景	1945頃	20.5 x 24	インク、鉛筆・トレーシングペーパー

#### 版画

	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材
65	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
66	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
67	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
68	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
69	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
70	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
71	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
72	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
73	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
74	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ

### 3. 1. 7. 第 58 回高文連 美術・書道・写真 中央展

概 要 大分県高等学校文化連盟と共催して開催した展覧会。美術・写真展には 39 校、写真展には、42 校が参加し、日々の創作活動に取り組む高校生たちの若々しくエネルギー溢る作品を紹介した。

#### 【美術・写真展】

会 期 平成 21 年 12 月 17 日（木）～20 日（日） 公開日数 4 日間  
主 催 大分県高等学校文化連盟、大分市美術館  
後 援 大分県教育委員会、大分県芸術文化振興会議、大分県美術協会、  
大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、  
OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム、シティ情報大分  
出品点数 美術 36 校 205 点  
写真 3 校 15 点  
観覧者数 600 人  
観 覧 料 無料

#### 【書道展】

会 期 平成 21 年 12 月 22 日（火）～25 日（金） 公開日数 4 日間  
主 催 大分県高等学校文化連盟、大分市美術館  
後 援 大分県教育委員会、大分県芸術文化振興会議、大分県美術協会、  
大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、  
OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム、シティ情報大分  
出品点数 書道 42 校 228 点  
観覧者数 1,132 人  
観 覧 料 無料

（担当 大神）

### 3. 1. 8. 梅原龍三郎、安井曾太郎、マチス、ピカソ、ダリ

#### 巨匠たちのパレット&絵画展 —新たな魅力と素顔—

**概要** 明治後期以降、日本洋画界では、印象派、後期印象派、フォーヴィスム、キュビスム等の新しい西欧美術を積極的に受容していく中で、昭和初期頃からは、日本の風土に適した日本的洋画の模索が行われるなど、日本独自の展開が見られ、多様な絵画世界が形成された。

本展では、日本的洋画を確立した梅原龍三郎、安井曾太郎をはじめ、昭和初期、画壇に旋風を起こした里見勝蔵、林武、福沢一郎など、わが国を代表する画家たちと、日本の画家たちに大きな影響を与えたマチス、デュフィ、ピカソ、ダリを加えた 43 画家の作品 58 点により、日本洋画の展開を紹介するとともに、画家たちが愛用し、制作過程の痕跡を留めたパレット 41 点を展示した。

**会期** 平成 22 年 1 月 5 日（火）～2 月 21 日（日） 公開日数 43 日間

**主催** 大分市美術館、大分合同新聞社

**後援** NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム

**協力** 財団法人 日動美術財団

**出品点数** 絵画 58 点 パレット 41 点

**観覧者数** 7,163 人

**観覧料** 一般 800(600)円／高大生 600(400)円、中学生以下無料  
※( )内は 20 人以上の団体料金

**関連事業** ■講演会（無料）

日時 平成 22 年 1 月 21 日 午後 3 時～4 時 30 分

場所 美術館ハイビジョンホール

講師 長谷川徳七氏（財団法人 日動美術財団理事長）

長谷川智恵子氏（株式会社 日動画廊副社長）

演題 パレットコレクションについて

参加者 108 人

**展示解説** ■美術館職員による展示解説（要観覧料）

日時 会期中毎週水曜日 午後 2 時～

場所 企画展示室

参加者 174 名

**関連記事** 「渡辺画伯、来館し制作も」『大分合同新聞』12 月 28 日

（抜粋）「マチスやピカソ・・・40 人 巨匠たちのパレット展」『大分合同新聞』夕刊  
1 月 5 日

御手洗賢司「心の葛藤 表出する道具」『大分合同新聞』夕刊1月21日  
「巨匠たちの&絵画展から＝上＝」『大分合同新聞』夕刊1月27日  
「作家との思い出語る」『大分合同新聞』夕刊1月28日  
「巨匠たちの&絵画展から＝下＝」『大分合同新聞』夕刊1月28日  
汐月顕「作家の秘密を見つけて」『大分合同新聞』夕刊2月4日

(担当 岩尾)

目録

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・素材
1	H. マチス	窓辺にすわる女	1919-20	62.2×50.6	油彩・キャンバス
2	R. デュファイ	アスコットの観覧席前のパドック	1931	43.7×53.6	水彩・紙
3	藤田嗣治	画家の上着をはおる少女	1958	60.6×40.9	油彩・キャンバス
4	S. ダリ	ピカソの肖像		55.5×41.0	リトグラフ・紙
5	S. ダリ	花のカリカチュア		63.8×43.4	リトグラフ・紙
6	P. ピカソ	画家とパレット	1963	61.0×50.0	油彩・キャンバス
7	梅原龍三郎	裸婦虎	1931	65.0×80.2	油彩・キャンバス
8	安井曾太郎	実る柿	1937	45.8×65.0	油彩・キャンバス
9	金山平三	春霞	c. 1940	60.5×90.7	油彩・キャンバス
10	小糸源太郎	三色堇		18.0×18.0	油彩・キャンバス
11	熊谷守一	たんぽぽに蝶	1960	33.4×23.9	油彩・板
12	中川一政	薔薇		72.7×60.6	油彩・キャンバス
13	里見勝蔵	婦人像		72.7×60.6	油彩・キャンバス
14	里見勝蔵	観音像	1943	112.1×162.1	油彩・キャンバス
15	北川民次	セトモノ	1965	160.3×128.5	油彩・キャンバス
16	高島達四郎	裸婦群像 (海女)	1937	112.2×195.4	油彩・キャンバス
17	林 武	三味線	1964	100.0×80.3	油彩・キャンバス
18	東郷青児	婦人像		90.9×72.7	油彩・キャンバス
19	中村研一	花籠	1930	50.0×60.6	油彩・キャンバス
20	寺内萬治郎	裸婦		37.5×55.1	パステル・紙
21	江藤純平	椿	1931	73.0×91.0	油彩・キャンバス
22	江藤 純平	オリーブ畑	1982	90.5×116.0	油彩・キャンバス
23	福沢一郎	自画像		33.3×24.2	油彩・キャンバス
24	朝井閑右衛門	子供たち (雪) A	1978	37.2×59.3	油彩・キャンバス
25	鳥海青児	旧教寺院のある広場	1930-32	41.1×52.9	油彩・キャンバス
26	荻須高德	ポートレットの店	1972	60.6×72.7	油彩・キャンバス
27	向井潤吉	小吹雪く日	1987	90.9×116.7	油彩・キャンバス
28	佐藤敬	ピアノと子供	1951	130.0×162.0	油彩・キャンバス
29	佐藤敬	サンドニィ風景	1956	49.0×64.0	グワッシュ、パステル・紙
30	佐藤敬	巴里の裏町	1956	32.5×50.0	グワッシュ、パステル・紙
31	片岡球子	花		54.0×44.5	リトグラフ・紙
32	海老原喜之助	阿蘇	1962	60.7×72.8	油彩・キャンバス
33	三岸節子	祝祭	1942	96.6×146.0	油彩・キャンバス
34	宮本三郎	画室の自画像	1968	100.0×72.7	油彩・キャンバス

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・素材
35	宮本三郎	海老	c. 1956	9.0×9.0	陶板画
36	脇田 和	赤い草つゆ	1986	91.0×72.8	油彩、コラージュ・キャンバス
37	糸園和三郎	四つのビルディング	1974	130.0×97.0	油彩・キャンバス
38	糸園和三郎	夫人像	1973	45.7×38.0	油彩・キャンバス
39	香月泰男	雲	1972	91.0×60.7	油彩・キャンバス
40	香月泰男	道路標識のある風景		64.7×45.7	油彩・キャンバス
41	高田 誠	雪国早春	1961	89.4×145.5	油彩・キャンバス
42	鴨居 玲	勲章	1985	116.7×72.7	油彩・キャンバス
43	鴨居 玲	教会 スペインB	1973	91.0×73.0	油彩・キャンバス
44	平野 遼	風景	1992	130.6×162.0	油彩・キャンバス
45	平野 遼	逃げる一団	1972	160.0×130.0	油彩・キャンバス
46	木村忠太	自画像	1974	100.0×100.0	油彩・キャンバス
47	島田章三	ミート・ショップ	1982	162.3×130.0	油彩・キャンバス
48	奥谷 博	阿修羅	1998	130.7×162.2	油彩・キャンバス
49	工藤和男	群	1974	160.0×130.0	油彩・キャンバス
50	工藤和男	琉球の舞	1993	160.0×130.0	油彩・キャンバス
51	今永清玄	破壊者-3	1994	193.9×162.1	油彩・キャンバス
52	今永清玄	幸運な兵士	1992	145.0×112.0	油彩・キャンバス
53	絹谷幸二	愛うつろい	1987	130.5×162.0	油彩・キャンバス
54	開 光市	ノクターン	1999	84.3×120.8	油彩・キャンバス
55	渡邊榮一	<デューラーのメランコリアと一本のビュランで僕の制作が始まった。その制作が、いつかはボルネスのメランコリアの渦に一本の面相筆と消えてゆくことをねがう。>	2009	15.0×10.0他	油彩・紙他
56	渡邊榮一	寓話「鳥たちが目覚めても人間のからくりはもとより、ゆめのからくりすら見る事はかなわなかった。」	2009	90.9×65.2	油彩・キャンバス
57	渡邊榮一	小さな王国<クレタ島の砂丘は、恐らく、ミノタウロスの迷宮に続いているのだ。>	2008	45.5×38.0	クレパス・紙
58	渡邊榮一	これは、もう一つのボール紙の祭礼である。	2009	62.0×47.0×16.0他	コラージュ・紙他

### 3. 1. 9. 第 4 4 回 市美展[公募展]

概 要 洋画・版画/日本画/書/写真/彫刻/工芸/デザインの 7 部門で作品公募を行い、  
出品作品を企画展示室、ホワイエ、常設棟で展示し、広く市民に紹介した。

会 期 平成 22 年 3 月 5 日(金)～3 月 28 日(日) 公開日数 21 日

主 催 大分市、大分市教育委員会、大分市美術展覧会運営委員会

後 援 大分県美術協会、アート・ブラザー、国際ソロプチミスト大分、大分合同新聞社、  
NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエ  
ム大分、OCT 大分ケーブルテレコム

表 彰 式 3 月 14 日 午後 2 時～2 時 30 分

出品点数 557 点

観覧者数 6,365 人

観覧料 無料

関連記事 「7 部門の作品一堂に」 『大分合同新聞』 3 月 4 日  
「555 点、意欲あふれる力作ズラリ」 『大分合同新聞』 3 月 6 日  
「大分市美展に 555 点」 『読売新聞』 3 月 12 日

(担当 岩尾)